2022 年 8 月
1168 号

百華 Manyoh

一冊の会 編集部
〒160-0015 東京都新宿区大京町５
（一冊の会研究室）

Reskilling 生涯学習の大切さ　～新しい潮流～

太陽が燦燦と輝く 8 月の暑さにも負けず、2022 年第一弾の櫻華塾がオンラインで行われました。皆さまへご案内しております様に、一冊の会は今年の 3 月に 20 年間お世話になりました信濃町から、事務所を一冊の会発祥の地である杉並区和泉へ引越致しました。現在 58 年目、10 月で 59 年目に入ります一冊の会ですが、新たなる気持ちで活動を行っております。

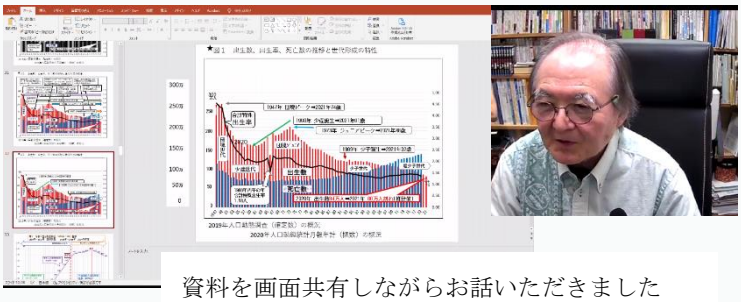
2022 年最初のオンラインは静岡大学名誉教授であり、長くに亘り一冊の会の活動を支援して下さっていらっしゃいます馬居先生による講義を行いました。馬居先生のお話は、私たちが現在見えているにも関わらず曖昧に感じている危機感や問題点を、大きく 2 点、データを用いてわかりやすく説明していただきました。

1 点目は、国民全体の IT スキルの強化について。国民 1 人 1 人のパソコンスキルを老若男女問わず向上させることで、国全体のデジタル化（時間と人件費節約）を進める必要があることです。現在、子どもたちにタブレット端末を配布することで、子どもだけではなく、家庭内での互助を通じてのリテラシーを向上させます。

2 点目は、日本の年齢人口の人口比率が大きく少子高齢型に変化した現在、誰もが、たとえ 1 人親であっても、産み育てやすい環境の整備がより重要になります。子供を産む女性への社会的、金銭的負担が非常に大きく、事実上産みづらいのが日本社会であり、少子社会を進めています。そのため、税制面での優遇に加え、子どもを家庭内のみではなく、地域全体で育てていかないといけません。

「読み聞かせ」から始まり、社会貢献と生涯教育を続けている一冊の会の我々は、真剣に考え取り組まねばならない課題です。先生のお話の全ては掲載できませんが、以下に簡単にまとめました。

【馬居先生の講義（要約)】



資料を画面共有しながらお話いただきました

昨年 4 月、全国の小中学校で 1 人 1 台の端末（タブレット・PC）が配布（貸与）されました。カーボンニュートラル、デジタル化、そして GIGA スクール構想といった大きな流れがあります。今、パソコンは 1 本の鉛筆、あるいは一冊の本なのです。識字の普及に携わってきた一冊の会としては、大変重要なことです。

日本は少子化となり、このままでは将来の人口構造は釣鐘型、つぼ型、さらにその先へ進んでしまうと予想されています。日本には、子どもは自然に産まれてくるという思い込みがあるように思います。色々な事情で 1 人で育てなくてはいけない人に、この国は冷たい。保育園も、つい最近まで「保育に欠ける」児が行くところとされてきました。このままでは日本は滅びます。誰の子どもであっても、新たな命を育てていくことは大切です。ヤングケアラーが最近話題になっていますが、昔は長子が弟妹の面倒をみるということは普通に行われていました。それが良いかはさておき、子育ては身近でしたし、子ども自身も異年齢の子と関わりながら育ちました。現在、未婚率も上昇し、子育てしている家庭とそうでない家庭が分断されています。社会の仕組みを変えていかなければなりません。

そのために、社会の皆が、今の子どもがおかれた状況に関心を持つ必要があります。今まで全ての児童に無償で与えられていたものは教科書でした。教科書は 1 冊数百円です。タブレットのような高価なものを無償で与えるということは、前代未聞なことなのです。しかし「できることと」と「必要なこと」にズレがあります。では、実際にどのように活用されているのか、あるいはいないのか。4 回程度に分けてお話することを考えて、続きは次回お話しいたします。

【大槻会長のお話】

一冊の会最高顧問であり、均等法産みの親である赤松良子先生の記事が 7 月 27 日の朝日新聞に掲載されました。半世紀以上にわたり、世界の名画を紹介してきた東京神保町の映画館「岩波ホール」が 29 日で閉館したとのこと。ミニシアターの先駆けとして、ここならではの 1 本を厳選して届けてきた名劇場。赤松先生が発案された映画「ベアテの贈りもの」は、戦後 GHQ のメンバーとして日本国憲法第 14 条に人権、第 24 条に男女の平等の項を盛り込む為に尽力し、日本の女性の地位向上に貢献したアメリカ人女性のベアテ・シロタ・ゴードンさんの半生となります。ベアテさんの苦悩があってこその憲法で謳われる男女平等。女性の地位向上を目指す一冊の会として、ベアテさん、赤松先生が与えてくれた法の上での男女平等・均等の灯を絶やすことなく後世へ繋いで参ります。

福島県相馬地方の伝統行事「相馬野馬追」が今年 3 年ぶりに開催されました。野馬追の歴史は今から 1000 年以上の昔とのことです。生前一冊の会永久最高顧問であり、旧相馬藩・相馬家の当主の奥方でいらっしゃいました相馬雪香先生から、大槻会長は何度も「相馬の野馬追は 1000 年以上の歴史がある素晴らしい行事よ、約 400 騎の騎馬武者が甲冑を身にまとい、野原を疾走する様子はまさに圧巻。是非見にいらっしゃい」と言われ、2011 年に見に行ったのを最後に行けておりませんでした。今年大変光栄なことに、一冊の会が 2011 年の東日本大震災以降 141 回にも亘り被災地支援を持続してきた南相馬市より野馬追にご招待を頂き、小山副会長、福井さんと 3 人で参加されました。福井さんの運転で福島県相馬市まで。長い歴史の間、途切れることなく伝承されてきた威風堂々たる出陣を目の当たりにし、持続させていくことの大切さを感じられたとのことです。

画面越しに写真を共有

被災地支援から戻られた福井さんは、相馬市の災害住宅井戸端長屋に復興のシンボルとして再生可能エネルギーを活用し最新の蓄電技術を備えた街路灯としての「雪香灯」に感銘を受け自ら材料を用意し、一冊の会発祥の地である現事務所の前に街路灯を取り付けたとのことです。8 月 6 日の夜、街路灯に蓄電池により光が灯され、雪香灯の光が一冊の会に新しい潮流を与えて下さいました。

【事務所に届けられた感想から】

デジタル化に対応した子どもを“子育てしていく”家庭・地域・社会においても新しい世代へ対応する為に Reskilling（新たなスキルの習得）の姿勢が大事になっていると再認識しました。日本の社会そのものが、戦後の歴史を経ての生活の大きな変化（男女平等・女性の地位向上・未婚者増加・家族構成の変化等）から人口構成は現在、少子化が大きな問題となっています。こういった「現在」に見合う社会の在り方を絶えず考え、学習をし、対応していかないとならない、つまり生涯学習の大事さを感じました。

一冊の会では、常に「今」の問題点/苦しんでいる人を見極め、持続的な支援活動を草の根の活動を行っています。その活動に自分も少しでも参画することで、日々勉強させて頂き、何よりも持続可能な世界の為に自分が「今」何をすればよいかを考える機会を与えてくれます。私も「今」を見極め、何が自分に出来るか、その為の Reskilling・生涯学習の姿勢を持ち続けたいと思います。

城杉清佳

馬居先生の提起された問題への関心、理解、学習は、私たちに身近なことであり、一冊の会が家庭内、地域内から発信、サポートできる内容です。これからも当事者として自分の問題に置き換えて学習して参ります。

山内聖士

子どもは社会の宝、世界の宝であり、皆で共有するものです。周りの力を存分に借りながら、行政のサポートをさらに拡充させ、社会全体で課題に取り組むべきだと思います。そして、家庭環境においてデジタル化の格差が出ないようにしていくことが必要だと思います。

勉強し、思いやりと心豊かな人間力で、社会貢献を全力を尽くして行います。

平間幸江

小 5 と小 3 の孫を持つ我が家。馬居先生のお話には 1 から 10 まで納得です。学校からタブレットを持って帰って来た時は、こんな小さいときから出来るのかしらと思いましたが、あっという間にマスターしました。これからの時代に大事なのは、スキルを高めた人材の育成であると、本当にそう思います。女性が社会に出て行くためにも、職業能力の再開発が大切です。人口問題も深刻です。次回が楽しみです、ありがとうございました。

新井明子

最後に、ZOOM 画面で集合写真を撮影しました。

文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員、山内事務局次長

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2020 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.